義務緑化から付加価値緑化へ

１９９７年の京都会議で先進国の温室効果ガス削減目標が定められたことをうけ、２０００年に東京都が、屋上緑化の義務化をおこないました。これをきっかけに日本国内でも追従の動きが出て全国的に屋上緑化推進（義務化）が動き出したと思います。

またこうした義務化に伴い、２００１年国土交通省が特定条件は必要なものの、固定資産税の軽減措置をおこなったり、助成金を整備してより実施しやすい環境を作り出してきました。

東京都の行政指導の結果、施行後は概ね屋上緑化施工面積が倍増しています。

東京都の義務化の内容は、一定の規模以上の建物で、利用可能な屋上面積に対して一定割合の緑化を義務付けるもので、大阪市では容積率に優遇制度を設けたりもしています。

屋上緑化を敷設するには、費用も掛かるし何よりメンテナンスも必要なことから、義務化といえども快く迎え入れない動きもあったことも否めません。

東京都の「利用可能な屋上」と言う事から、利用できない屋上に設計しているのではとも思える物件もあったようです。

しかし、時勢には逆らえずそういったネガティブ思考は一時的なもので屋上緑化全盛期に突入していくことになります。

マンションの屋上に庭園を設計したりするようになり、付加価値をあげることで（価値観の向上）高価なマンションも完売するようになっていきました。

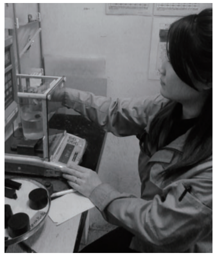
「義務」から、価値観をあげるために屋上緑化を導入する。商業施設でも緑の庭園をテーマにしたところも数多くオープンし屋上緑化が当たり前になってきました。

新しいものが導入されるときには、賛否両論があり、なかなか進まない事が多いですが、紆余曲折しても結局は、環境のためという大義名分に色々な付加価値が付き、浸透していくという流れとなったようです。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

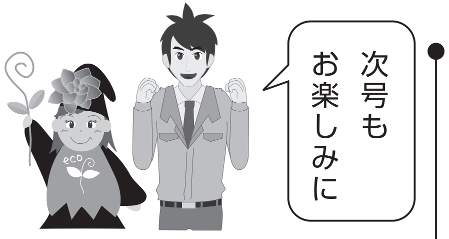
スタッフ紹介

岡山工場、技術部の平尾と申します。昨年の７月から勤めさせていただいております。前職では営業事務・営業職を少し経験していますので、納期が優先なことや注文一つ一つ獲得する辛さ、獲得した時の達成感は少しながらですが理解出来ると思います。業務内容は主に製品の検査を行っております。エマルジョン関係・粉材関係・シール材関係の検査をはじめ塗板作成・生サンプルの送付準備等を行っています。又、課長が不在の時は試験成績表の作成を行ったり定期点検を行っています。製品検査では製品の種類が多く、最初は覚えるのに毎日必死で業務をこなしておりましたが、少しずつ慣れ、三か月間の研修を経て検査員となり、今は一人で検査を行えるようになりました。塗板作成等は工法が色々あり覚えるのが大変ですが、コテや刷毛を使って製作していくのが個人的には楽しく、回数をこなすとともに上達していくのが面白いなと感じております。コテや刷毛など今まで使用する機会がなかったのでいつも新鮮な気持ちです。話は変わりますが、私は大阪で生まれて、２６年間大阪で育ちました。夫が岡山の人なので結婚を機に一昨年末に岡山に引越してきました。都会から出てきて、友達も家族も誰一人知り合いがおらず正直最初は苦痛で仕方なく、大阪に帰ろうか悩んだ時期もありましたが、自分から外に出て変わってみようと思い、今こうして働いて、色んな方々と出会えました。方言にも最初は中々慣れず、苦労しましたが、今はもうだいぶ慣れ、聞き取れるようになりました。まだまだ岡山のことは分からないことが多いですが、また色々情報があれば教えていただきたいと思っています。又、お酒はワインが好きなので、おいしいお店や種類などの情報もお待ちしております。最後になりますが、今後とも精一杯頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導の程宜しくお願い致します。



DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.
●本社
〒571-0030　大阪府門真市末広町 8-13
TEL：06-6909-6755(代)　/　FAX：06-6909-6702
●東京支店
〒105-0012　東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL：03-3436-3801(代)　/　FAX：03-3436-3803

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。



URL：http://www.dainichikasei.co.jp

Vol.48 映画で学ぶ 環境問題

== ウイルス感染映画・総集編 ==

本記事執筆中の４月上旬、新型コロナで世界中が「戦時下」状態です。

本コラムでは、「コンテイジョン」と「ＦＬＵ運命の３６時間」と、２回続きでウイルス映画を取りあげました。当時は「現実には、ありえない話」と感じた方が多いのではないでしょうか。

しかし今回のコロナ騒ぎでは、世界中で国境閉鎖や都市封鎖が起こり、医療崩壊すら珍しくなくなっています。まさに「コンテイジョン」や「ＦＬＵ」そのもの。こんな日常を３ヶ月前に想像できた読者は、いるでしょうか？

以前は「環境問題のコラムなのに、なぜウイルス映画が続くのか？」とのご意見もありましたが、今では「連載のおかげで、予備知識がついていて良かった」などの感想も頂いています。

マリオン コティヤール
マット デイモン
ローレンス フィッシュバーン
ジュード ロウ
グウィネス パルトロウ
ケイト ウィンスレット
コンテイジョン
スティーブン・ソダーバーグ監督
11.12

『コンテイジョン』
2011 年・米国映画【第 49 号】

なお本コラムでは、３７号でも「アウトブレイク」を取り上げましたが、「ＦＬＵ」と共通するのは、軍部が「感染地域を爆破し、市民を抹殺して終息させる方針」を示したこと。映画では、主人公らの活躍によりハッピーエンドで終わるのですが、現実でも、良い治療薬やワクチンができて、早く平和的な収束をしてほしいものです。

さてこのウイルス、最近では、生物兵器や人工ウイルス説が出ています。具体的には、中国共産党が、香港デモや武漢デモ（ゴミ焼却場反対運動）を散会させようと研究中の人工ウイルスが漏れた、という話です。他には、アメリカ軍がばらまいたという中国側の話や、世界を牛耳る「闇政府」が生物兵器を利用して、人口削減をはかろうとしている、などの説が出ています。

「闇政府」というのは、軍産複合体や医薬業界の上層部だったり、はたまた金融マフィアだったり。もしくは、これらの集合体のことを言うそうですが、確かに大きく報じられるはずの「ドイツ銀行破綻？」騒動がナリをひそめ、株価乱高下で儲けている超富裕層もいるので本当のところは、どうなのでしょう。

ちなみに、今後、起こり得る内容としては、

●世界中で疫病による「人口削減」が現実化する。
●ワクチンが開発され、世界中でワクチン接種を促される。
●このワクチンには、ナノサイズのマイクロチップが入っている。
●ワクチン接種をしていない人間を見つける検査が出てくる。
●世界統一政府の樹立。

要するに、闇政府による人間の管理ということですが、気味が悪いのは、早くもイギリスの元首相ゴードン・ブラウン氏が、世界政府樹立を堂々と提案している点です。これら一連の流れが、あまりにも堂々としているため、一般市民は闇政府の陰謀に気づかないのだ、とのことです。

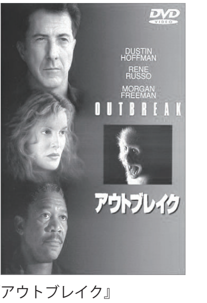
空気感染、速度/秒速3.4人、致死率100%
救いたい人がいる。それが僕の使命だから。
FLU
フル
運命の36時間
チャン・ヒョク

『FLU 運命の 36 時間』
2013 年・韓国映画【第 50 号】

また、１０年も前に作られた「アングロサクソン・ミッション」という警鐘動画が今、拡散されていて、こちらは上級フリーメーソンの計画を知った男性が、核戦争への危機回避を人々に呼びかける動画で、それが現在の状況とあまりに似ているため、視聴者を驚かせています。

ちなみに現在、アメリカやイギリスが中国政府に『新型コロナに対する損害賠償』を準備中という報道も流れました。そして、このような非常時にあっても尖閣諸島や台湾への干渉をやめない中国政府によるアジア圏での有事も懸念されているうえ、農業人口の不足やサクトビバッタの襲来で、世界的な食糧難が訪れるという警告が、国連などから出されるなど、なんとも落ち着かない状況です。

まさに今は、映画より現実の方が怖い状況ですが、時々刻々と情勢が変わるなか、本コラムがお手元に届く頃には、映画から学んだように、日本人含め全人類が勝ち残り、ハッピーエンドになっていることを祈っています。



『アウトブレイク』
1995 年・米国映画【第 37 号】

私たちを取り巻く大切な環境問題として、今回は写真の３作品再掲にて締めくくらせていただきます。

執筆：２０２０年４月上旬